

学校再編(統廃合)で学級人数増 教育条件悪化 全国の自治体は少人数学級めざす 大阪市は否定

光り輝く小規模学校

生野区は3月付で「生野区西部地域学校再編の取組状況」を配布しました。

昨年3月公表された、小学校8校・中学校1校を一举に廃校にする「再編整備計画」は、保護者、PTA、地域から反対の声があがり、生野区が目標としていた「8月基本合意」はすべての小学校区で行われませんでした。

「再編整備計画」は白紙撤回するべきです。

別掲の全国から年500人ほどの教育関係者が視察に訪れる小学校の児童数は100人です。先進国では100人から200人が標準です。

全国調査で上位 学校現場の視察 村に年500人

学力アップ 秋田に学べ
全国調査で上位 学校現場の視察 村に年500人
学力の高さを旨を掲げ、全国から年500人ほどの教育関係者が視察に訪れる山村が秋田県にある。現場を訪ねると、磨かれた授業風景が目に飛び込んできた。秋田県立学力調査でトップクラスの結果を維持する自治体の取り組みを、ほかの自治体も学ぶ動きが広がっている。

県教委は全国学力調査で上位の結果を出せる背景に、全国に先駆けて01年に導入し始めた30人程度の少人数学級もあるとみる。

朝日新聞 2017年1月27日

学校再編(統廃合)で1学級の児童数は?

鶴橋小	17人	⇒	A小	35人
御幸森小	18人	⇒	B小	39人
林寺小	18人	⇒	C小	31人
田島小	26人	⇒	D小	30人

(※詳細は裏面参照)

全国の自治体が努力している少人数学級の逆行しています

大阪市学校園教職員組合
2017年4・5月
06-6910-8700

保護者・地域相互の近く、親しく濃いつながりが醸し出す空気”に勝る教育環境はないと、全国にある光り輝く小規模校から報告されています。「小規模」だから問題があると、大阪市や生野区が決めつけることは許せません。

○通学に45分もかかる。交通事故・事件も心配。

○校区が広く遊び友達が多くにいない。(研究によれば遊ぶ頻度が減り家で過ごす時間が増える)

子どもから大人まで、すべての人に地域と関わる暮らしが根づいていることが、豊かなまちづくりにつながります。

統廃合は学校を中心として作り上げてきた地域と関わる豊かな暮らしとまとまりを破壊します。学校統廃合が子どもの幸せにつながるのか、真剣に検討することが求められています。